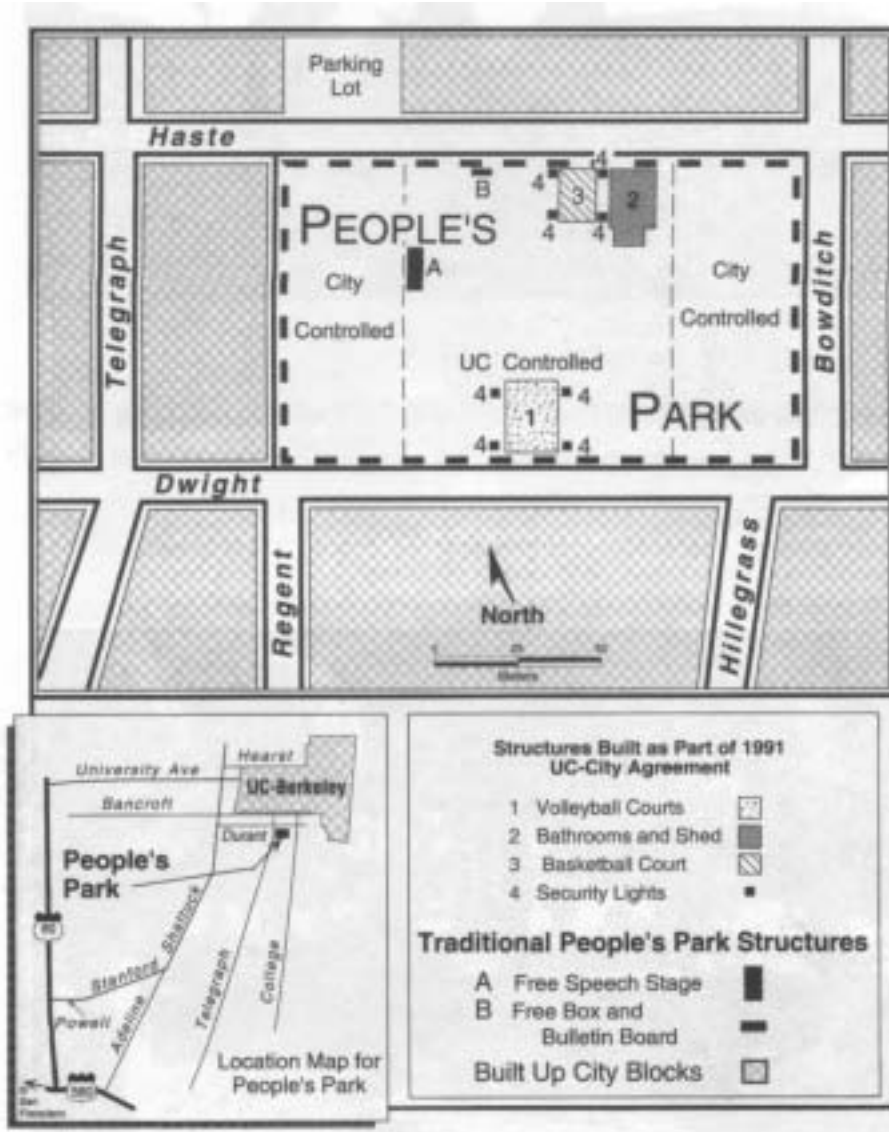




第1図 カリフォルニア州バークレイ市の民衆公園のバレーボールコート。これらのコートの建設は、1991年8月の数日間に及ぶ暴動の一番の原因だった。撮影 Don Mitchell



第2図 1969年の民衆公園暴動を詳細に描いたヘイスト通り（Haste Street）の壁画。過去20年に渡って民衆公園をめぐる紛争が続き、また近隣には夥しい数の落書きがされたにも係わらず、この壁画はめったに傷つけられることがなかった。撮影 Nora Mitchell。



第3図 カリフォルニア州バークレイ市の民衆公園。この地図は1991年にカリフォルニア大学と市との間で締結された公園開発協定の一部として実施された改変を示している。著者のフィールドノートから。



第4図 1991年以前の民衆公園の中央部分。写真中の人物は自由演説台付近にいる人達。フリー・ボックスは中央右。影になったエリアは、ほぼバレーボールコートが建設された場所。撮影 Don Mitchell。



第5図 1993年当時、民衆公園の東端（市管理のエリア）に設営されたホームレスのキャンプ。公園が変わった後も、当時なお多くの人々がそこで眠っている。しかし、結論を読みたい。撮影 Nora Mitchell



第6図 通りに面したこの建物には、ミラー商会の支店が入居していたが、この衣料店は、過去20年間にテレグラフ・アヴェニューで生じた変化をよく表わしている。ミラー商会の支店はテレグラフに進出してきた最も最初のチェーンストアの一つであり、民衆公園とテレグラフ・アヴェニューで紛争が起こった際に、しばしば暴徒と掠奪者の標的にされた。ミラー商会の支店は、これら多くの戦いを切り抜けたが、ついに1992年に閉店した。それは過去2、3年に生じたこのアヴェニューの確実な衰退を象徴している。撮影 Don Mitchell



第7図 カリフォルニア大学と市との協定の一部として建設された休憩室（上図）と備品倉庫（下図）。公園の住民によれば、この備品倉庫は警官の派出所も兼ねているという。撮影 Don Mitchell



第8図 民衆公園の浴室壁面に描かれた紛争と権力の象徴。活動家たちは、この公園と関連したいろいろな活動と暴動を描写することで、この空間を再生しようとしてきた。これらの壁画は、1969年の暴動の時に通りにまで描かれているものほど、気まぐれな落書きに耐え得ないと思われる。撮影 Don Mitchell



第9図 抗議を表わすために民衆公園に立てられた看板の例。この立看板は、しばしば Dwight Avenue 沿のバレーボールコート の東端に出現するが、それはこの公園内の近年の変化の背後にある問題を通行人に思い出させるためである。撮影 Nora Mitchell